

2020年10月海洋観測結果について

9月29,30日に栽培漁業センターの調査船「おしどり」により海洋観測を以下の表1、図1の調査点で行いました。調査結果については、当センターホームページ (<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=201810>) と沿海漁協にはファクシミリで通知します。

表1 観測地点

	調査点	海底水深	経度	緯度
赤碕ライン	ST-1	13m	133.40	35.3100
	ST-2	50m	133.40	35.3430
	ST-3	70m	133.40	35.3736
	ST-4	95m	133.40	35.4340
	ST-5	185m	133.40	35.4805
長尾鼻ライン	ST-6	185m	134.00	35.4300
	ST-7	95m	134.00	35.4000
	ST-8	70m	134.00	35.3700
	ST-9	50m	134.00	35.3400
	ST-10	13m	134.00	35.3200

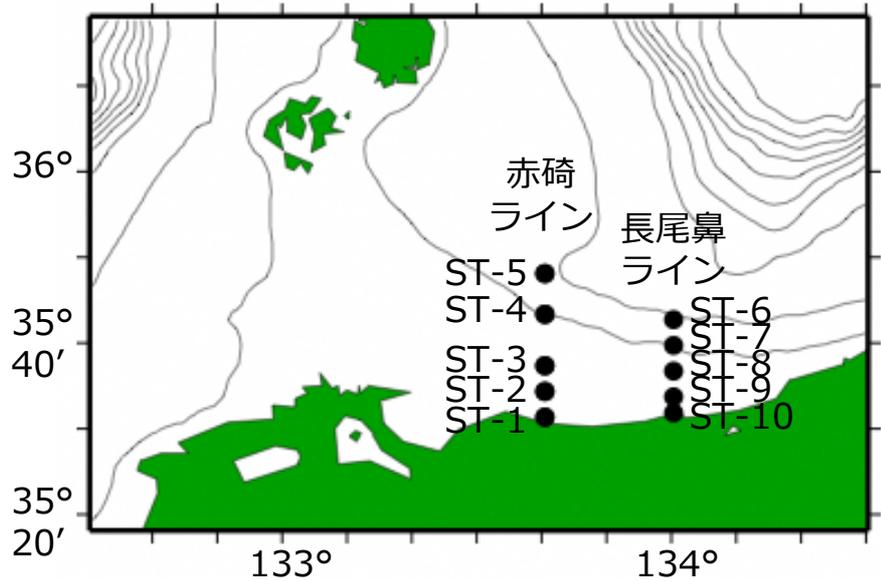
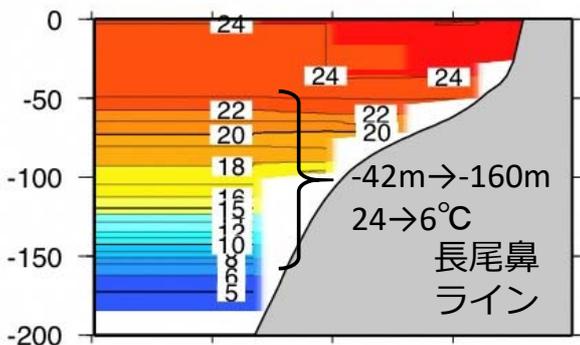
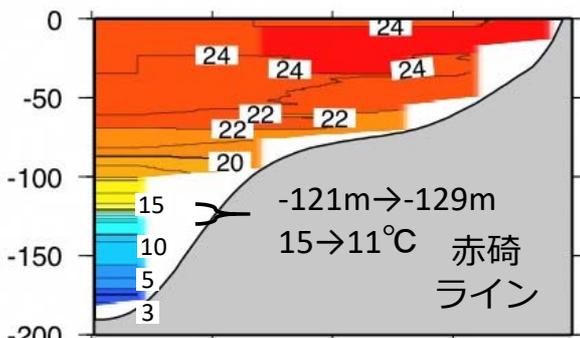


図1 観測地点

【鉛直分布図】

赤碕、長尾鼻ラインともに気温の低下に合わせ、表水温が低下し、24℃台になっています。

ソデイカ（あかいか）の操業で気になる100m深の水温は、赤碕、長尾鼻ラインそれぞれ18.1℃、17.2℃と高く、漁場水温としては適した状態にあります。



★ソデイカ（あかいか）情報★

ここまでの今漁期のソデイカの漁獲状況から、来遊は遅く、来遊量は少ないと考えられます。9月平均胴長41.7cm（前年9月平均56.2cm）

★大型クラゲ情報★

小型底びき網で入網が確認されています。東シナ海からの後続は小康状態で推移すると予想されており、今後も漁網が揚がらないような大量入網は無いと思います。引き続き、御注意ください。

図2 鉛直分布図（海水温の単位：℃）

【10月観測の水深帯別の比較】

赤碕ラインでは水深0,30m帯では平年並みでしたが、50m帯では高く、90m帯ではかなり高い水温でした。長尾鼻ラインでは、30,50m帯で高い水温が観察されました（表2）。先月の高水温の影響が出ているものと考えられます。

表2 各調査ラインの水深帯毎の平均水温

調査定線	赤碕ライン (133° 40')				長尾鼻ライン (134° 00')			
	水深帯	0m	30m	50m	90m	0m	30m	50m
2020年	24.0	23.9	22.9	19.7	24.4	24.1	23.0	18.1
前年	23.7	22.6	20.7	17.3	23.7	21.4	19.4	18.6
2010-19年平均	24.0	23.6	21.3	17.6	23.9	23.0	21.1	17.9
平年差	0.0	0.3	1.6	2.1	0.6	1.1	1.9	0.2

【2020年7月の主要魚種の漁獲動向】

鳥取県漁獲情報システムの7月速報値から、主要魚種の漁獲量比較を行いました。総漁獲量は、前年、5年平均（2015-19年）を下回りました（図3）。前年、5年平均を上回った魚種はスルメイカで、ぶり類、ケンサキイカ（白いか）、あじ類、サワラでした。キジハタは前年を下回ったものの、5年平均を上回りました。

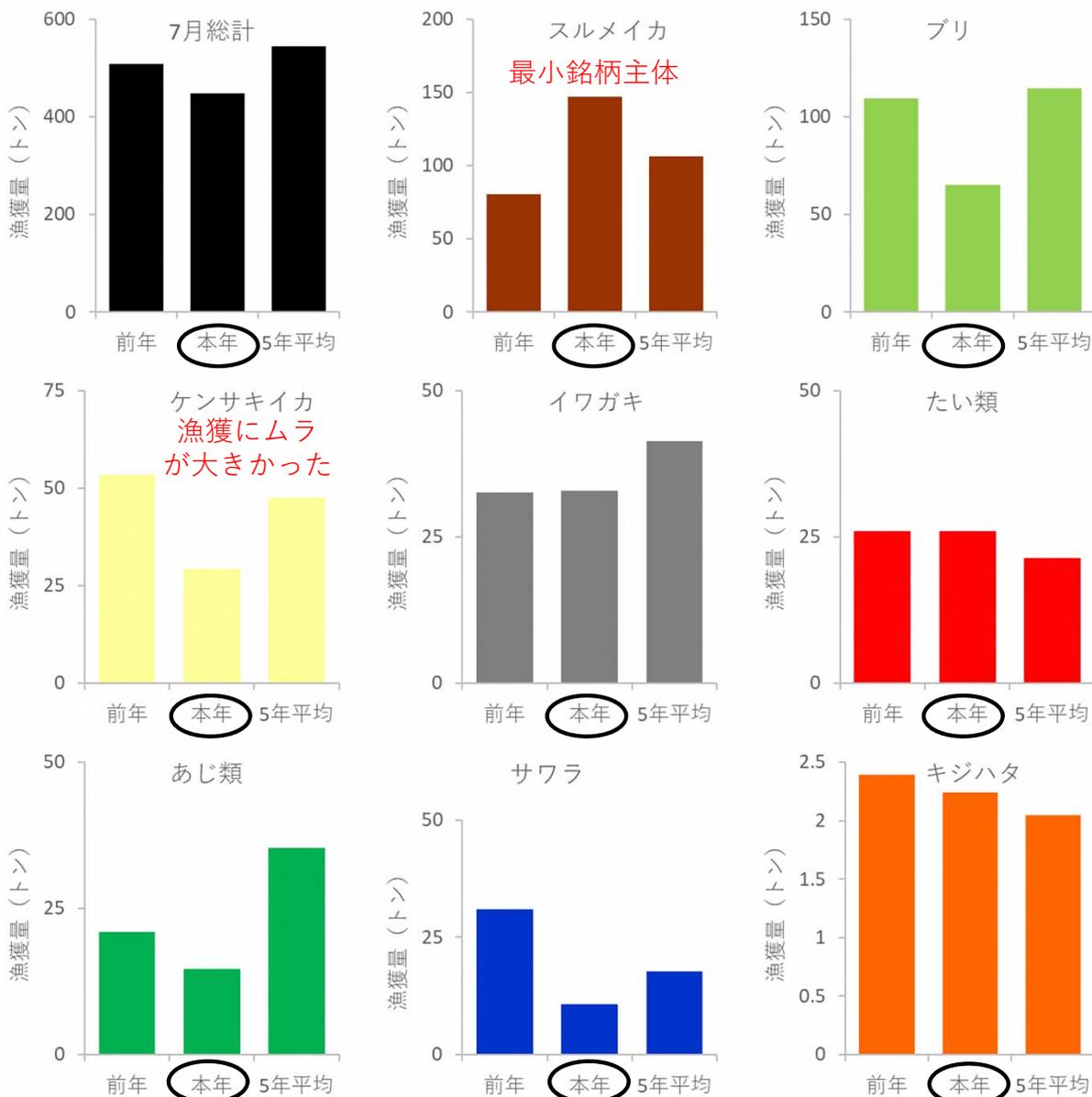


図3 7月沿岸漁業の主要漁獲物の漁獲状況